

報告者 IFA指導普及委員会 秋元利之

## 【目的】

2016年に「DAPPE Vision」と題し、本県サッカーの育成・強化・普及の発展に向けて各専門委員会が連携して取り組んでいくことを発信しました。

DAPPE（ダッペ）とは、Discovery（発見や気付きがある）、Achieve（達成する喜びがある）、Program（ビジョンに基づく計画を実施）、Professional（専門性を高める）、Environment（ベクトルを合わせる環境になる）の頭文字を取ったもので、選手・指導者が種別や地域の枠を越えて関わり合う環境になることを目標としており、指導者のベクトルを合わせていくことが選手の日常を変え、本県の成長につながると考えています。

本研修会は「DAPPE Vision」のもと、茨城県の長期一貫指導体制の確立を目指した指導者全体の研修の場としており、ナショナルトレセンコーチの指導を通して茨城県全体の指導者の資質向上を図ることを目的としています。

【開催日時】 平成29年1月21日（土）

【会場】 鹿島ハイツスポーツプラザ

【講師】 森島 修 氏（鹿島アントラーズFC）

（公財）日本サッカー協会ナショナルトレセンコーチ関東担当

【参加者】 2種・3種・4種 合計56名

【参加費用】 1500円

【日程】 13時30分～15時00分 実技

内容：U12 ナショナルトレセンメニューから

15時30分～17時00分 講義

内容：コーチングについて・FFPを含めたU12年代について



## 【実技報告】①ウォーミングアップ

実技指導の入る前のウォーミングアップを受講者に担当していただきました。今回は茨城県サッカー協会キッズ委員の堀之内寛さん（鹿島アントラーズ所属）が担当しました。アイスブレイクや鬼ごっこなど、細かいステップワークやドリブルなどのメニューを楽しみながら取り組むことができました。体を動かすことの楽しさやコミュニケーションの大切さを伝えていただきました。ありがとうございました。



## 【実技報告】②パス&コントロール

〈オーガナイズ〉

コーン間15m, コーン〜マーカー3m, 5人1組

①外側のマーカーからスタート。コーンとマーカーの間へパス

ボールによりながら外側に足でオープンにコントロールしてパス  
パスしたら移動

②外側のマーカーからスタート。コーンへパス

パスが来た方向にコントロールして外側の足でパス

《キーファクター》

動きながらのパス・コントロールの質（ボールに寄る 足の固定 軸足より前で 踏み込み）

動き出しのタイミング（観ている 蹴れる瞬間）

パスを出した足が次の1歩となる



【実技報告】③Tr 1 4対2 (2対1 + 2対1)

〈オーガナイズ〉

7~8m, 14m, 3色に分かれて, 同じグリッドに3人

ボールを保持しながらパス交換

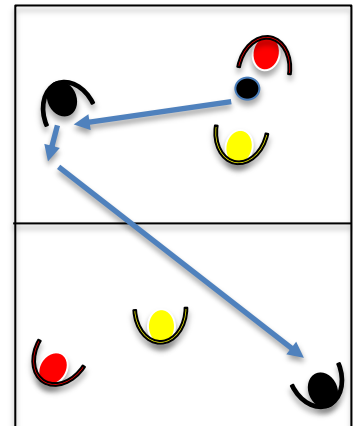
守備者は自分のゾーンで守備

《キーファクター》

DFを観てのコントロール 空いたスペースへのコントロール

パススピード 相手の逆を取る

守備者への働きかけ (ボールを奪うための1stDFの判断と2ndDFの判断に働きかける)



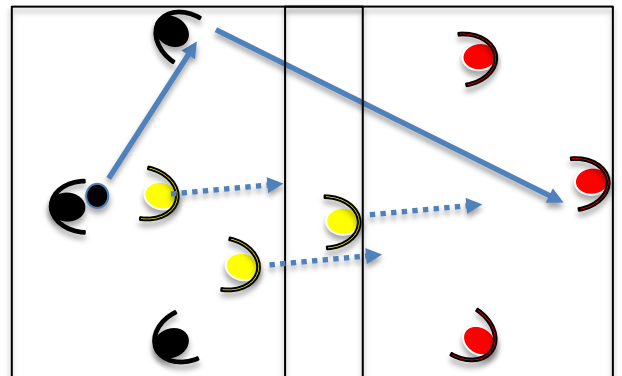
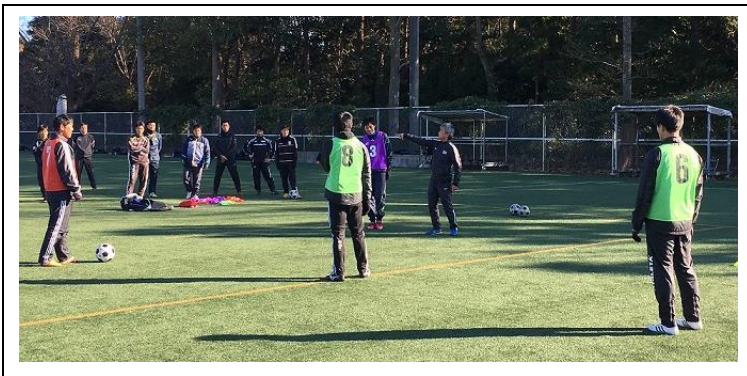
【実技報告】④Tr 2 6対3

〈オーガナイズ〉

15m, 14m・3m・14m, 3人1組で3色に分かれ, 1組が守備

ボールを保持しながらパス交換

守備者はボールがあるゾーンに2人, 中央ゾーンに1人配置



【受講写真】



## 【講義報告】

### ①コーチングについて

コーチがどのような働きかけをしているか、映像を見ながら解説をしていただいた。一つ一つのプレーについてジャッジ（具体的に評価）してあげるのがU12年代の指導には重要であるということであった。特に具体的にほめてあげることが重要である。プレーをさせながら「言葉を投げかける」ことやフリーズして「問いかける」ことを通して選手が気づきプレーが改善されるように働きかける。



### ②FFP（フットボールフューチャープログラム）

日 時：2016年8月3日～8日

会 場：時之栖

参加者：U12年代選手768名、指導者144人、審判108人）

目 的：①タレントの発掘…様々な個性に向けた選考、個人差を考慮

②日常の刺激…天井効果の排除、指導者の資質向上、キッズからの刺激と連携

③選手と指導者…潜在能力が高い選手がともに活動することで新たな自分を発見

内 容：① 都道府県対抗戦 8vs8 ②クワトロゲーム（4対4：20m×30m GKなし）

③トレーニング

④アクティビティ

<ゲームのクオリティ>ゲームの全体像…全員攻撃・全員守備（連続した攻守）

守備…ボールを奪う姿勢（素早い攻守の切り替えから積極的な守備）

予測や判断がある連動した守備

攻撃…ゴールへ向かう姿勢

意図的な組み立て（観る・タイミング）、クロス、崩し（3人目）

U12年代の質 → 間違いなく向上している。

だからこそプレーの質にこだわり妥協しない。

本気で日常を変える。

第1回 DAPPE 研修会は主に4種（U-12）年代を中心としましたが、4種だけでなく本当に多くの2種・3種の指導者に参加していただきました。DAPPEの趣旨の一つでもある「種別を超えた関わり」が今回の研修会を通して広がっていくことを期待したいと思います。